

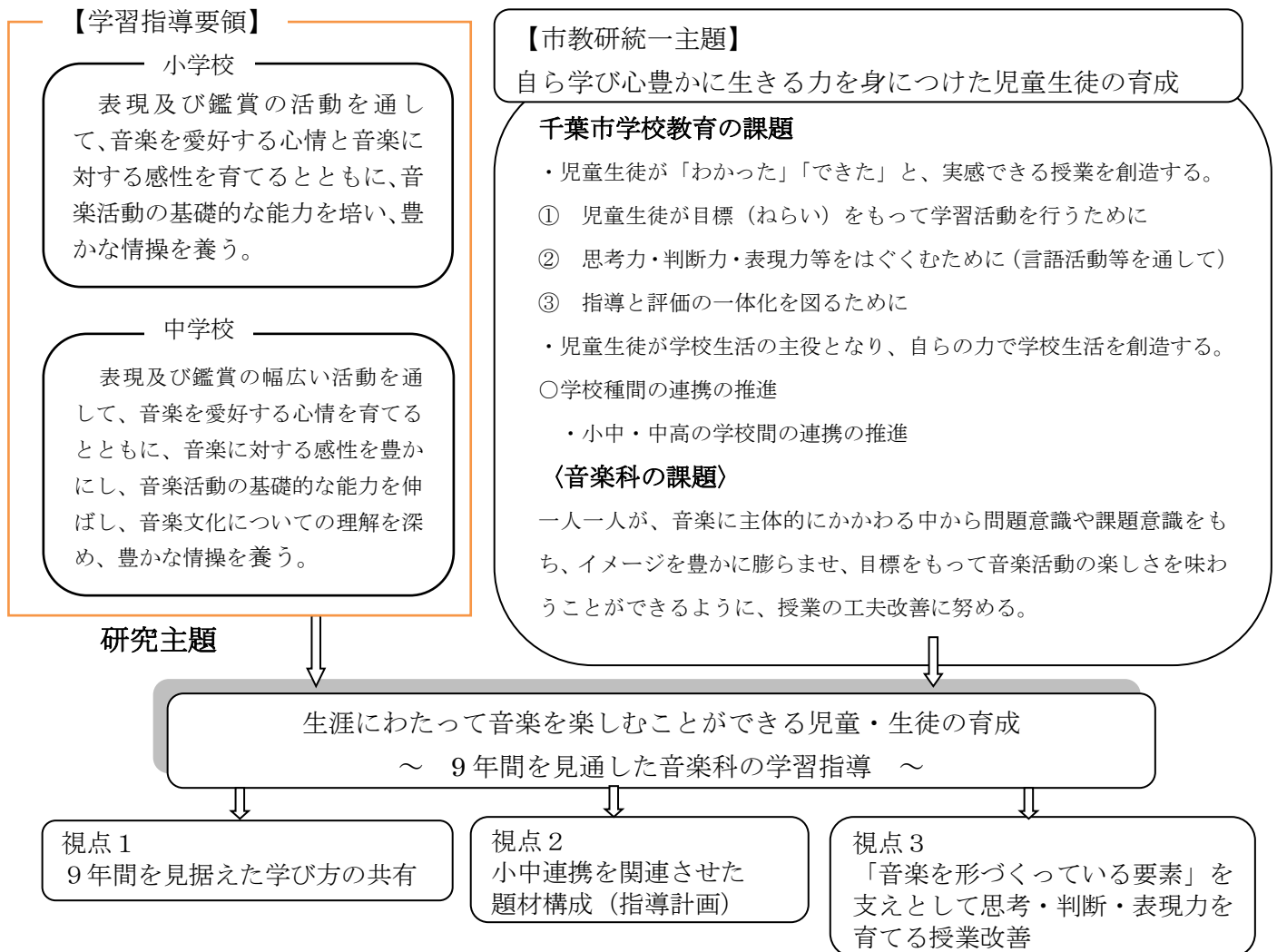
ハーモニー

発行市教研音楽部会

千葉市教育研究会音楽部会 理事 清水 幸子

今年度の音楽部会は、研究主題を「生涯にわたって音楽を楽しむことができる児童・生徒の育成」とし、副題として『9年間を見通した音楽科の学習指導』と掲げました。具体的な取り組みとして、①9年間を見据えた学び方の共有 ②小中連携を関連させた題材構成 ③「音楽を形作っている要素」を支えとして、思考力・判断力・表現力を育てる授業改善です。長期的な見通しを持つての研修になりますので、今年度は、しっかりと土台作りをし、次年度につなげていけるよう、私たち一人一人が積極的に取り組んでいくことが大切になります。6月：授業実践発表、夏休み：講師を招いての実技研修、9月：指導案検討、10月：検証授業、11月：授業研究報告会と、常に小中が一緒になって研修を行います。ぜひとも、市教研創立当初の目標である「一人一人の問題をみんなの問題に、みんなの問題を一人一人のものにする」ためにも、音楽部会では、それぞれの立場を超えて、共通する問題解決の場として、研修を深め、私たち一人一人の指導力を高めていきましょう。

研究・研修全体構造図



6月例会報告

さる、6月18日、市内の6つの学校を会場にして部会毎に分かれ、小中合同で「授業実践発表会」が行われました。初めての取組でしたが、小中それぞれから様々な実践が発表され、会員の皆様からも「貴重な情報交換の場にすることができた」等の感想をたくさんいただきました。

《東部 表現部会》 場所:千葉市立おゆみ野南中学校

小学校低学年：田久保麻衣先生（鶴沢小）

「いろいろな音楽を楽しもう」

- 先生のピアノに合わせて歩いたり、今月の歌を歌うなどの通常の授業の流れの紹介のあと、グループで「かぼちゃ」を教材にして、楽器の種類や打ち方、大きさ、順番の工夫について話し合い、発表するという内容の学習を実際に先生たちが生徒になって、やってみました。

小学校中学年：神馬侑子先生（本町小）

「いろいろな音のひびきをかんとろう」

- 思いや意図をもって演奏するための手立てとして、表現したいイメージをもたせる、事前に音色の違いを感じ取る学習をする、音を組み合わせる工夫と聴き合う活動を取り入れる学習活動について、「音のカーニバル」を教材とした授業実践を発表していただきました。

小学校高学年：高橋敦子先生（松ヶ丘小）

「いろいろなひびきを味わおう」

- 「リボンのおどり」を教材にして、拡大譜やワークシートを使ってパートごとの音程やリズムをつかむことやグループごとに練習する授業実践を発表していただきました。また、先生のピアノ伴奏に合わせて「アメージンググレース」などのリコーダー曲をみんなで演奏しました。

中学校：中村奈緒美先生（泉谷中）

「いろいろな楽器の音色を楽しもう」

- アルトリコーダーとギターの実践について、「かっこう」「四季の歌」を教材とした学習内容を発表していただきました。中学校では合唱コンクールの練習が占める割合が多くなりがちであるが、器楽は3年間の系統性をもって学習している実践について発表していただきました。

質問・意見・情報交換

- ギターの指導において、弦の交換や管理、チューニングの方法について質問が出た。
- 小学校段階で読譜についての指導をしっかりとできると良いとの意見が出た。
- 中学校におけるアルトリコーダーの使用状況について

指導者の先生から～（日野玲子先生、秋葉純先生）

- 小・中のお互いが学習していることを情報交換できるこのような形の研修はとても意義がある。

研究主題を目指し、生涯にわたって音楽を愛好する態度を育てていきたい。

- 題材名から、小から中までの学習がつながっていることがわかる。9年間を見据えていきたい。

読譜についての指導は今後の課題である。特に音の長さ、リズムを理解させることが大事。何よりも子どもたちが「楽しい」と思えることが大切である。



《東部 鑑賞部会》 場所:千葉市立おゆみ野南中学校

小学校低学年：白岩桃子先生（みつわ台北小）

「はくのまとまりをかんじとろう」

- ・教材は「トルコ行進曲」。2拍子の泊のまとまり、強弱や旋律の変化を感じ取ること为目标に、楽曲のシンバルの音を聞き取らせ、使われている強弱を意識したリズム打ちをする。また、旋律の変化を挙手でみとる。聞き取った音の強弱と挿絵で情景を創造し、表現方法をふくらませる。

小学校中学年：井上朝子 先生（桜木小）

「リコーダーとなかよしになろう」

- ・教材は「小鳥のために」。曲名を知らせてから聴くのと、知らせない2パターンで実践。音色より楽器を考えさせてからDVDにて鑑賞。奏法はクイズ形式にして興味・関心を高める。合図の音楽も強弱・調・リズムに変化をもたせ、聴く耳を育てている。

小学校高学年：若林恵子先生（おゆみ野南小）

「曲想を味わおう」

- ・教材は「ハンガリー舞曲第5番」。聴き取った曲想の移り変わりを言葉に表す。次に曲想や旋律の流れに合った動きをグループごとに考え、発表する。聴き取ったことを生かした表現を目指す。また、鑑賞と表現を関連づけ、「キリマンジャロ」の合奏でも聴き取ったことを表現の工夫につながるよう意識付けする。

中学校：山村敦子 先生（大宮中）

「詩と音楽」

- ・教材は「魔王」。冒頭部分のみ聴き、関心・意欲を高める。その後、原曲で鑑賞。歌い分けを聴き取り、歌詞を理解する。旋律、雰囲気、歌い方、変化について気づかせる。原語、日本語と好みを選択させ、鑑賞。実践紹介後、ジェシーノーマンのDVDを全員で聴き、教材選択の重要性を実感した。

質問・意見・情報交換

- ・高学年における身体表現の工夫→スカーフやマレットを持つことで、動ける児童も多い。
- ・ワークシートの添削→教師のねらいを視점에評価することが大切。
- ・【共通事項】の言葉は常に使うことで定着がはかれる。

指導者の先生から～（太宰信也先生、根本愛子先生）

- ・音楽を形づくっている要素のうち、どれを主軸にするのかを明確にする。県音研の指導案を踏襲して指導案は作成していく。
- ・比較鑑賞は効果的。また、旋律の変化を捉える方法の図形楽譜など、小・中でやり方を揃えていけるとよい。
- ・低学年の音楽は遊びを生かし、その中に学びを入れていくことが大切。また、どの子もわかるような手だてを考える。苦手な子どもへの配慮も重要で、所属感の持てる指導をしていく。何を感じ取らせるかの視点を持ち教材選択していくことを常に意識する。



《東部 音楽づくり・創作部会》 場所:千葉市立みつわ台中学校

小学校低学年：村田美香先生（蘇我小）

「簡単なフレーズを自分でつくって発表する」

- 1年生の始めに、等拍、リズム感を養う簡単な音楽づくりをする。
 - ・リズムにのって、名前でリレーをする。
- 鍵盤ハーモニカを初めてから行う簡単な音楽づくり。
 - ・ドレミの3音を組み合わせ、リズムに合わせて発表する。

小学校中学年：瀧澤千絵先生（土気小）

「日本の音楽に親しもう」

- 5つの音（ミソラドレ）でお囃子の旋律をつくる。
 - ・音符カードを使い、決まったリズムに音をつける。
 - ・つくったリズムのしたにカタカナで階名を書いた後、五線譜に旋律を書く。
- つくった旋律を和太鼓のリズムに合わせて友だちとリレーし、リコーダーで演奏する。

小学校高学年：竹内由紀子先生（土気南小）

「言葉を生かしたリズム音楽づくり」

「音の重なりや組み合わせ、音楽の終わり方に着目した音楽づくり」

- 「春と言えばなあに？」
 - ・言葉による簡単なゲームから、リズムづくり、ボディーパーカッションを使ったリズムアンサンブルへと発展させる。
- 「リズム即興演奏」
 - ・打楽器を使いリズム即興演奏をする。難しく感じさせないように、リズム演奏に慣れ、順を追って即興できるよう指導する。

中学校：長澤明香先生（更科中）

「『リズム創作』を通じた音楽の基礎的な能力の育成」

- マグネットを使ったリズム創作とリズム読み・リズム家（4分の4拍子 4小節）
- 言葉のリズムに基づいたリズム創作
 - ・「おうまがとおる」の演奏練習～発表
 - ・「こだわりカレー」のリズムアンサンブル作り

質問・意見・情報交換

- ・リズムにのせることの大切さがわかった。手だての工夫が必要だと感じた。
- ・記譜、読譜について、音符を書かせることが難しい。
- ・リズムパターンを視覚的に訴える。PCで創作する活動は関心が高いが、ゲーム感覚で終わらないよう、工夫が必要との意見が出た。

指導者の先生から～（小泉聖子先生、小高正樹先生）

- ・音楽づくりを学習する中で、3つの音から始めるなど 約束に基づいて拍にのせることが大切である。
- ・音符は音楽の中での「あいうえお」である。記譜の指導は大切である。
- ・授業の基礎、基本を再確認することが必要で、生徒自身が活動できる時間となるよう、工夫が必要である。
- ・創作は子どもたちに価値のあるものでなければならない。一生懸命創ることができるような内容にすることが大切である。



《西部 表現部会》 場所:千葉市立真砂西小学校

小学校全学年：小笠原温子先生（横戸小）

全校・学級で取り組む表現活動」

- ・ 全校の技能を高めるための取り組みについて
週明けの朝の会は校歌の練習、今月の歌（文部省唱歌や英語の歌も取り入れる。）
地域音楽交流会に全校で出演。
- ・ 学級の朝の会では、日直が指揮を行う。帰りの会は、ミソドのハーモニーで。

小学校中・高学年：濱田道子先生（稲毛二小）

「豊かな表現活動をめざして」

- <3年>・歌う姿勢の確認（しっかり足の裏を付けて立つ）
 - ・ 新曲を扱うときは、CDを聴くことでイメージを共有する。
 - ・ 歌いながら聴き合う場をもつ→自分の声を意識させる。
- <5年>・グループの中で聴き合う活動を行う。バランスに気付かせる。→次へのめあてにつなげる。
- <6年>・全員が指揮を振れるようにする。→自分たちの表現について意識させる。
 - ・ 卒業式の歌が小学校生活最後の音楽学習として取り組ませる。

中学校：長沼真美先生（幸町二中）

「日本の歌の美しさを味わおう」（「浜辺の歌」）

- ・ 歌詞の内容の理解（歌詞のイメージを絵や音楽で表したり、写真を提示したりして、より深く歌詞の内容を感じ取らせる。）
- ・ 表現の工夫（自分の思いやその理由を付箋に書き、拡大譜に貼り、全体で共有する場を設定）

中学校：稲澤雅代先生（草野中）

「混声合唱の楽しみ」（「夢の世界を」）

- ・ 9年間を見据えた学び方の共有（強弱の変化をつけるために全員が共有できる基準をつくる。）
「日本の音楽に親しもう～箏を演奏しよう～（「さくらさくら」）
- ・ 小中連携を関連させた題材構成（小中合同で、箏の基本的な奏法を学び、演奏の仕方を工夫する。）
「合唱表現の工夫」（「夢の世界を」「大地讃頌」）
- ・ 全員がパートリーダーになり、自分の思いを下級生にどう伝えたらよいか。

質問・意見・情報交換

- ・ 専科として限られた時間で。読譜、リズム打ちなど基礎的な力を付けることは難しい。
- ・ 専科と担任のつながり、小学校と中学校のつながりを大切にしていきたい。
- ・ 小学校、中学校で使用している器楽楽器についての情報交換を行った。

指導者の先生から～（清水幸子先生、山本美枝子先生、福村圭子先生）

- ・ 生活と音楽をどのように結び付けていくか。生涯にわたって音楽を愛する心を育てたい。
- ・ 日頃より声に出して言えないことが情報交換できて有意義な研修となった。
- ・ 教科書を持ち寄り、研修したことでそれぞれがどんな学習をしているのか理解することができた。
- ・ 基本は読譜。どのように押さえていけばよいのか。読譜力で音楽の楽しみ方が変わってくる。
- ・ 小中お互いを知る今回がはじめての一歩となり、充実したものとなった。



《西部 鑑賞部会》 場所:千葉市立作新小学校

小学校低学年：中里浩子先生（幕張南小）

「はくをかんじてリズムをとろう」（「しろくまのジェンカ」）

- ・低学年の児童は、お面を頭に付けるなどの工夫で気分が高まり、楽しく活動できる。体を動かしながら、リズムをとり、歌いながら楽しく繰り返すうちに、拍の流れに乗って演奏することができるようになる。

小学校中学年：桶田加代先生（柏台小）

「吹奏楽と弦楽合奏の響きの違いを感じ取る」（「双頭の鷲の旗の下に」）

「楽器の組み合わせによる響きの違いを感じ取る」（「歓喜」）

- ・音楽から感じ取ったものの表出方法の工夫として①色で表す②絵や線で表す方法を提案した。双方とも楽曲を聴きながら文章を書くより、なぜそうしたのかを後でゆっくり文章にした方が、児童は表現しやすいそうだった。
- ・2つの楽器の音色を比較して聴かせたい場合には、伴奏楽器の少ない同じ曲を演奏した物を聴かせると、音色の違いに気づきやすい。

小学校高学年：澤田真紀子先生（轟町小）

「和音の移り変わりを楽しみながらきいたり合奏したりしよう」

- ・一番低いパートから順にパートを増やしていきながら、何の曲か当てるクイズを行うと、和音進行に集中して聴くことができ、和音が音楽を表す大切なものであることに気づかせることができる。

中学校：鈴木千博先生（真砂中）

「詩の内容と曲想の変化とのかかわりを感じ取ろう」（「魔王」）

- ・ねらいに適したCDや映像を、指導者が取捨選択して生徒に鑑賞させることが重要である。ドイツ語による表現の深さや、4役を一人で表現していること、また男性版や女性版でその違いを感じ取ることを通して、「魔王」の世界観を感じ取らせると良い。

質問・意見・情報交換

- ・感じ取ったことの表し方は、低学年は身体表現での看取り、中学年は図や絵で表すことも多い。高学年では根拠を持って表し、さらに中学では細分化した聴き取りをさせたい。
- ・小中で同じ教材を学習することもあるが、スパイラルに繰り返すことで定着されるだろう。音楽に小学校から触れさせることも効果的であろう。

指導者の先生から～（宮下彬先生、内藤一夫先生）

- ・小学校の研修は、誰でも指導できる共通性のある内容だが、中学校では専門性が高まり、内容が深まってくる。小学校高学年で、感じたことを根拠を持って表現しようとする学習は、中学校の目標につながっていくので良いことだ。
- ・鑑賞の授業では、正解のある問いとない問いがある。教材にあわせて組み合わせると良い。
- ・鑑賞では共通事項の項目が ” わかる ” ことを目標に指導していくと良い。

《西部 音楽づくり・創作部会》

場所:千葉市立西の谷小学校

小学校低学年：紫雲友紀子先生（西の谷小）

「えを おんがくで あらわそう」

低学年の授業では「学習の目的をもった遊び」をたくさん取り入れ、音楽づくりにつなげます。

〈あそび1〉 「おんがくしつ たんけん」 様々な楽器に出会い、触り、色々な音色に出会います。

〈あそび2〉 「にんぼう 音になる」 音や音楽を聴き、体を動かしながら特徴を感じ取ります。

〈あそび3〉 「リズムでおはなし」 短いリズムをつくって音で会話をします。（反復・問いと答え）

〈音楽づくり〉 「えを おんがくで あらわそう」（絵本「ころころころ」から）

あそびの中で学んだこと（音色の選択・リズム・強弱、速度の工夫）を生かして、絵の様子を音楽で表します。

拍の流れを感じて「言葉でリズムアンサンブル」

小学校中学年：尾川知恵先生（西の谷小）

好きな4文字の言葉をえらび（例：ブランコ）これをもとにグループでリズムアンサンブルをつくりま
す。※A班 ブランコがずっとゆれているイメージで「ブランコブランコ」と細かいリズムを繰り返す。

①

ブ	ラ	ン	コ	ブ	ラ	ン	コ	・	・	ブ	ラ	ン	コ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

②

ブ	ラ	ン	コ	ブ	ラ	ン	コ	ブ	ラ	ン	コ	・	・	ブ	ラ	ン	コ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

くり返しや問いと答え活用しながら、強弱を工夫したり、声の違いをうまく利用したりして、各班楽しいアンサンブルを完成させました。



小学校高学年：西田理恵先生（上の台小）

曲想を味わおう 「リズムアンサンブル」

〈ステップ1〉 リズムカレンダーを活用して簡単なリズムモチーフ（8拍）をつくり、記譜。

〈ステップ2〉 友達とモチーフを組み合わせ、強弱や速度を工夫しながらアンサンブルをつくる。

中学年で学習した「言葉でアンサンブル」を発展させた内容です。高学年ということで、複雑なリズムがつけられるようになります。音楽の仕組みを効果的に利用しながら、音の重なり、強弱や速度にも工夫を凝らします。始めは手拍子で。

慣れたら打楽器を選択し、音のバランスにも気を付けて演奏するとダイナミックな作品になります。



中学校：勝見典子先生（幕張中）

「リズム創作」

〈常時活動〉 毎時間の授業の初めにリズム聴音を行い、リズム感覚を養い記譜に慣れさせます。

〈中1〉 ～リズムをつくり、ボディーパーカッションや和太鼓で表現してみよう～

①リズム譜を見て、言葉で読んだり、ボディーパーカッションで演奏してします。

②色々な音符や休符を組み合わせてリズムモチーフをつくり、記譜をします。

表現したいイメージをもち、音色・速度・強弱を工夫し、友達と聴き合い意見交換をしながら、楽しいパフォーマンスで和太鼓を演奏します。

③全員が自分のリズムを順につなげて演奏し、1つの曲を完成させます。

〈中2〉 ～リズムをつくり、カップス（プラスチックコップ演奏）で表現してみよう～ ※中1の発展



指導者の先生から ～ （ 都賀中校長：神作稔 先生 ）

- ・いろいろなことに挑戦できるよう「間違えてもいい」という環境も必要。
- ・友達の作品や演奏から良い所を見つけられるように。
- ・小学校で学習した内容を中学でどう生かすか、これからの研究で探っていきたい。

8月の例会の報告

8月19日の午後は、みやざき倶楽部において2つの講座に分かれ実技研修を行いました。

ミュージックホールでは、東邦大学教授 粕谷宏美先生による「合唱指導法・指揮法」の講座が開かれました。前半は合唱指導法で、2人組、3人組でリズム打ちを組み合わせたり短いフレーズをカノンにして歌い合わせたりして人と関わりながら楽しくハーモニーを作ることを実践しました。

後半は指揮法の研修になりました。体の中央と図形の中央を一致させ、曲の始まりには空振りを何拍もしない事、また拍子ごとの指揮図形など基礎から教えていただきました。基礎の図形を応用し、レガート表現やテンポを遅くする際の分割、フェルマータの振り方など実際の楽曲を取り上げ、全員でピアノに合わせて指揮をしました。先生の手本の指揮はとても美しく、指揮の動きと音が一致しなければならないことを強く感じました。

一方中ホールでは、筑波大学附属小学校の平野次郎先生による「音楽づくり・即興」の講座が開かれました。「理想は表現領域の中での音楽づくり・即興の割合は2割。何もない状態で作るのは難しく、ねらいのある音楽あそび（低学年）から、少しずつ積み重ねていくことが大切。」などのお話からスタート。だれでも第一歩が踏み出せる分かりやすいアイデアをたくさん用意していただき、参加者全員で子ども達と同様の体験をしていきました。「拍の流れに乗れない子」「なかなか表現できない子」に対してフォロー・ステップアップさせていくための言葉掛け、グループ活動時の教師の動き、評価方法などが随所に散りばめられており、一時も気を抜けない研修となりました。また、鈴木楽器の協力で、音楽づくりに最適な楽器に触れたり演奏したりすることもでき、これからの授業に役立つ情報も数多く得ることができました。



なお、配布したアンケート集計結果（86名回答）では、90%の先生方が今後も今回同様の実技研修を希望しています。反面、「合唱指導法・指揮法の講座」では小学校の担任の先生方から「内容が難しい」、反面「音楽づくり・即興」の講座では、中学校の先生方から「やや物足りない」との意見が聞かれ、講座の持ち方の改善の必要性が課題として残りました。

9月・10月の例会（9月：指導案検討、10月：検証授業・協議会）

《東部 表現》	川原 木綿 先生（北貝塚小）	1年生「ようすをおもいうかべて」
《東部 音楽づくり・創作》	青木さゆり 先生（蘇我小）	2年生「いろいろな音を楽しもう」
《東部 鑑賞》	高橋 清 先生（生浜西小）	5年生「曲想を味わおう」
《西部 表現》	永田枝諸里 先生（磯辺三小）	5年生「曲想を味わおう」
《西部 音楽づくり・創作》	水野 達 先生（西小中台小）	4年生「曲の気分を感じ取ろう」
《西部 鑑賞》	金高 聡子 先生（検見川小）	6年生「いろいろな音のひびきを味わおう」

- 1 題材名 ようすをおもいうかべよう
教材名 鑑賞「おどるこねこ」(アンダソン作曲)
表現「ひのまる」(高野辰之作詞 岡野貞一作曲)「はるなつあきふゆ」(三浦真理作詞・作曲)

2 題材について

本題材は、音楽を聴いて場面の様子を想像しながら楽曲の気分を感じ取ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動を通して、鑑賞する楽しさを味わう。また、歌詞の表す様子や気持ちを想像し、思いをもって表現豊かに歌うことに焦点を当てた学習を進めていく。

児童はこれまで、音楽の時間や、朝や帰りの会でさまざまな歌に親しみ、自分の歌声に気を付けて、美しい発音で歌えるようにしてきた。「うみ」の学習では、どんな感じに歌いたいのか、曲の盛り上がるころはどこなのかを考えながら歌う活動をした。自分の思いを言葉で表すことがまだ難しい児童が多いため、本題材では曲の雰囲気を表す言葉をたくさん提示することや、曲の雰囲気に合わせて体を動かす活動することなどを通して、楽曲の気分を感じ取ったり、思いをもったりすることにつなげていくことが大切だと考える。

鑑賞の活動では、楽曲を全体にわたって感じ取る能力、楽曲の構造を理解して聴く能力、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する能力を育てることが大切になる。音楽に合わせて体を動かす活動や、楽曲の雰囲気を言葉で表す活動を通して楽曲の気分や楽しさを感じ取ることができるようにしていきたい。

鑑賞の活動で楽曲の雰囲気を言葉や体で表現したことを生かして、歌唱表現を工夫することにつなげていく。低学年の児童は歌うことが好きで、歌詞の表す情景や場面を想像して楽しんだり、登場人物や動物になりきって歌ったりする姿が多い。歌うことを楽しむだけでなく、歌詞の内容や、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取って、それを基に歌唱の表現を工夫し、思いをもって歌えるようにしていきたい。

そして、本題材で学習したことは、2年生の題材「ようすをおもいうかべよう」につなげていき、中学年では、「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」、高学年では「曲想を味わおう」の題材につながる。中学年では、歌詞の意味や内容、曲想にふさわしい表現の工夫をすること、高学年では歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素やその働きを鋭く感じ取ったりしながら、思いや意図をもって表現を工夫することが求められている。

中学校では、「心の歌」の題材で、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫したり、「混声合唱の楽しみ・響き」の題材では、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、表現を工夫したりすることが求められる。中学校の第1学年では、「歌詞の内容や曲想を感じ取り」「表現を工夫して歌う」ことをねらいとしていることに対し、第2学年、第3学年では、「歌詞の内容や曲想を味わって」「曲にふさわしい表現を工夫して歌う」ことをねらいとしている。これは、楽曲から感じ取ったことを自らの価値判断で確認し、それぞれの曲のイメージにふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現することが求められているということで、本題材で最終的に求められている力といえる。

そのため、本題材では楽曲の雰囲気を感じ取り、それらの雰囲気が音楽を形づくっている要素とどのようにかわっているかを確認すること、歌詞の内容からイメージを明確なものにし、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を工夫すること、などを大切に、楽曲を味わうことや、思いや意図をもって表現することの基礎を作ることをねらいとしたい。

3 題材の目標

○楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりする。

○歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分合った表現を工夫して歌う。

4 研究の視点について

【視点3】「音楽を形づくっている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

本題材では、楽曲の雰囲気や歌詞と、音楽を形づくっている要素を結びつけて表現できるようにするため、まず、楽曲の雰囲気を言葉で表すことができるようにしていきたいと考えている。また語彙も少なく、言葉の表す意味を理解しきれていない児童も多いため、いろいろな雰囲気音楽を聴かせ、音楽の雰囲気を表す言葉を共有し、掲示していく。そうすることで、音楽の雰囲気を表す言葉の引き出しを増やしたり、言葉と音楽の雰囲気を結び付けたりすることができるのではないかと考える。そうすることにより、歌詞が表わすイメージを具体的に言葉で表して共有し、発音や声の出し方などの歌い方を工夫することにつながるのではないかと考える。

また、音楽の雰囲気を感じ取る活動をするときは、「こう感じたのは、強弱が〇〇だから、音色が〇〇だから」など、その都度音楽を形づくっている要素に関連付けていきたい。そうすることにより、表現活動のときに、漠然と表現するのではなく、「このような雰囲気を出したいから強弱をこうしたい、速度をこうしたい」と、思いや意図をもって表現を工夫することにつながるのではないかと考える。

5 題材の指導計画（7時間）

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準<評価方法>
1次		ねらい 場面の様子を思い浮かべながら「おどるこねこ」を聴き、楽曲の気分を楽しんだり、変化を感じ取ったりする。	
	1	○猫の様子を思い浮かべながら、楽曲全体の気分を楽しむ。 ・どんな動物が登場するのか想像しながら、音色や旋律に気を付けて聴く。 ・猫の鳴き声を表しているところを探し、猫のまねをしながら聴く。	・想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度①）<行動観察・発言内容>
	2	○場面の様子を思い浮かべて、楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。 ・体を動かしながら聴き、曲の雰囲気が変わるところを探し、それぞれの部分がどのような雰囲気なのか考える。 ・それぞれの部分がどんな雰囲気なのか、どうしてそのような雰囲気に聴こえるのかを考える。	・想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。（鑑賞の能力①）<行動観察・ワークシート>
2次		ねらい 旋律や拍の流れに気を付けて、「ひのまる」をのびのびと歌う。	
	1	○旋律の特徴を感じ取って歌う。 ・国旗について、自由に話し合う。 ・歌詞の表す様子や気持ちを想像する。 ・範唱を聴いたり、互いの声を聴き合ったりして歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度②）<行動観察・演奏聴取>
	2	○旋律や拍の流れに気を付けて、のびのびとした声で歌う。 ・階名や「ラララ」などで模唱する。 ・リズムボックスを流し、拍の流れに乗って歌う。 ・自分の歌声に気を付けながら、歌詞の様子や気持ちを考えて歌う。	・旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、正しい音程やリズムで歌っている。（音楽表現の技能①）<行動観察・演奏聴取>
3次		ねらい 歌詞の表す様子や気持ちを想像し、表現の仕方を工夫して表情豊かに「はるなつあきふゆ」を歌う。	
	1	○歌詞の表す様子や気持ちを想像する。 ・範唱を聴き、曲の雰囲気をつかみながら模唱する。 ・歌詞を音読し、どのような場面なのか想像する。 ・それぞれの季節を、どのような感じで歌いたいのか、その雰囲気を表すために速度と強弱をどのように工夫するかを考える。 ・自分なりに考えた表現で歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度②）<ワークシート・表情観察・演奏聴取>
	2	○歌詞の表す様子や気持ちを想像し、どのように歌いたいか考える。 ・それぞれの歌詞に着目し、どのような雰囲気がするかを考える。 ・季節ごとにグループに分かれ、どのような感じで歌いたいのか、強弱・速度はどのようにするかをまとめる。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（音楽表現の創意工夫）<ワークシート・表情観察・演奏聴取>
本時	3	○歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。 ・季節ごとにグループに分かれ、自分なりに考えた歌詞から感じ取れる雰囲気を話し合い、それに合わせた発音・声の出し方などの歌い方をまとめる。 ・工夫した歌を互いに聴き合い、グループごとの工夫を意識しながら通して歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。（音楽表現の技能②）<ワークシート・表情観察・演奏聴取>

6 本時の学習 (7/7)

(1) 本時の目標

○歌詞の表す様子や気持ちに合った表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり◆評価規準<評価方法>
<p>1 音楽に合わせて体を動かす。 ・「ゆかいにあるけば」に合わせて、歌う 前 の体の準備をする。</p> <p>2 「夕日が背中を押してくる」を歌う。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○心を開放して表現することができるように、雰囲気づくりを行う。</p> <p>○息をたくさん吸ったり、声を出したりして、歌う準備が整うようにする。</p> <p>○歌詞の内容から、場面の様子を想像して、気持ちを込めて歌うことができるように声をかける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「はる なつ あき ふゆ」のようすをおもいうかべてうたおう。</div>	
<p>4 季節ごとにグループに分かれ、自分なりに考えた歌詞から感じ取れる雰囲気を話し合い、歌う。 ・ふわり…やさしく ・ざぶんと…元気に ・ちょろり…かわいらしく ・つめたい…さびしい感じ など</p> <p>5 グループごとに発表する。</p>	<p>○前時に一人一人が考えた、歌詞から感じ取れる雰囲気や、表現の工夫について思い出せるように声をかけ、グループの全員が考えを話せるように励ます。</p> <p>○言葉だけでなく、体中で「こんな感じ」と表してもよいことを伝える。ただし、歌がおろそかにならないように声をかける。</p> <p>○なかなか考えがまとまらないグループは、それぞれの児童のワークシートを見ながら、みんなの考えを反映してグループとしての表現にできるよう助言する。</p> <p>○話し合うだけでなく、歌いながら自分たちの表現を確かめられるように声をかけていく。はじめの音だけ鍵盤ハーモニカで合わせてから歌うようにする。</p> <p>○聞いている人に伝わる表現で歌うことを目指せるよう声をかけ、グループ内や同じ季節を歌うグループごとに聴き合い、発音や声の出し方の工夫につながるようにする。</p> <p>○発表前にどのような雰囲気を表したいのか、そのため工夫したところはどこなのかを話すようにし、ポイントを押さえて発表が聴けるようにする。</p> <p>○発表を聴いてどのような雰囲気が伝わってきたかも発表させ、いろいろな感じ方があっても共有していく。</p> <p>○グループごとに工夫したところや、発表を聴いて感じたことを掲示し、視覚的にも捉えられるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。 (音楽表現の技能②) <ワークシート・表情観察・演奏聴取></p> </div>
<p>6 全員で4つの季節をつなげて歌う。</p>	<p>○グループごとの発表や、自分なりに考えた表現を意識しながら歌うことができるようにする。</p> <p>○つなげて歌うことで、雰囲気の違いを感じ取ることができるように声をかける。</p>

1 題材名 曲想を味わおう

教材名 鑑賞「威風堂々 第1番」エルガー作曲

表現「まっかな秋」薩摩忠 作詞/小林秀雄 作曲

「キリマンジャロ」ウォルフシュタイン・ウォルフガングヤス 作曲/橋本祥路 編曲

2 題材について (題材観)

本題材は、音楽を形づくっている要素や歌詞の内容と曲想とのかかわり合いに気付きながら曲想やその変化を感じ取って、音楽を想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現の仕方を工夫したりすることをねらいとしている。児童はこれまでに、旋律の特徴や拍の流れにのってリズムを感じ取る学習をしてきた。また「いつでもあの海は」や「リボンのおどり」では、いろいろな思いや意図をもって、旋律の重なり方に合う表現方法の工夫をしてきた。

本題材では、まず鑑賞の学習で曲想とその変化を感じ取って聴き、威風堂々では対照的な2つの部分が交互に出てくることなど楽曲の構造を理解する。そして、歌唱の学習においては、楽譜を見て、曲想の変化や歌詞に出てくる「まっか」や「照らされて」など一つ一つの言葉のもつ雰囲気にも目を向けさせ、思いや意図をもって表現の仕方を工夫させていきたいと考える。また、器楽の学習においても、鑑賞で気付いたり感じたりしたことを楽器の選択や重ね方の工夫に結び付けるようにし、曲想の変化に合った表現の仕方を工夫させていきたい。

本題材「曲想を味わおう」から、中学校第1学年の題材「混声合唱へのステップ」で曲想を感じ取って速度や強弱の変化、フレーズの特徴を生かした表現の工夫や、曲の構成に気を付けながら曲想の変化を感じ取って聴く学習につなげていく。さらに、中学校第2学年の題材「混声合唱の響き—様々な曲想の変化—」で速度や強弱の変化を生かして多様な表現を工夫し、旋律の動きを味わい、理解して表現する学習や、中学校第3学年の題材「合唱表現の工夫」「合唱の喜び1」で強弱の変化を生かした表現を工夫する学習に発展していくと思われる。

3 題材の目標

- ・言葉の感じや曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって演奏する。
- ・曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴くようにする。

4 研究の視点について**【視点2】小中連携を関連させた題材構成 (指導計画)**

○鑑賞での学びを生かした表現の工夫

本題材では鑑賞での学びを生かして、歌唱教材や器楽教材に取り組む。中学校においても、「情景と音楽」という題材から「心の歌」「混声合唱へのステップ」という歌唱表現の題材へと続いていく。そこで、鑑賞が鑑賞のみで終わらず、学んだことを基に自分の思いや意図をもった表現活動につなげていくことで、学びの連続性をもたせたい。

○同じ教材で高め・深める学習

本題材で扱う「まっかな秋」は幼い頃から耳にし、小学校では「今月の歌」や「季節の歌」として歌っていたりするなど児童に馴染みのある曲である。同じように、小学校で扱った教材をもう一度中学校で扱うことも少なくない。そこで、本題材では聴く人やその年齢、気分によって音楽の感じ方や表現の仕方も様々あるということに気付き、これまでの学びと自分の感じた気持ちを大切にしながら、今の自分にできる表現は何なのかを考えさせていきたい。そうすることで、正しい音程で歌えたら終わりではなく、中学校において二部合唱から三部合唱になったり、同声から混声になり旋律やハーモニーが変化したりするなど、小学校での演奏との違いに気付き、より深い学びができるような児童に育てたい。

【視点3】「音楽を形づくっている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

○思いや意図を表す拡大詞・拡大譜の活用

グループで話し合ったことを拡大譜に書き込んでいく。そうすることで、歌い手は意識して歌い、聴き手も目で見て耳で聴いて、その工夫を感じ取ることができる。また、漠然と抱いていた曲の雰囲気や感じが目に見える形となってあらわれることで、表現しやすくなるのではないかと考える。

○音楽を形づくっている要素を観点として、曲想をとらえたり演奏の工夫を考えたりしていく

児童はこれまでに曲の雰囲気を言葉であらわす活動をしてきている。しかし、なぜそう感じるのかというところには至っていない。そこで、音楽を形づくっている要素を基に曲想をとらえる活動をすることで、その変化の理由に気付きやすくなる。そして、こうしたいからこう工夫しようという自分なりの思いや意図をもった演奏の工夫ができるようにしたい。

6 題材の指導計画（8時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次「威風堂々」	ねらい	曲想の移り変わりを感じ取りながら聴く。	
	第1時	○曲想とその変化に気を付けて聴き楽曲の構造に気付く。 ・CDで全体を通して聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・曲に合わせて身体を動かし、アとイの曲想の違いを感じ取って聴く。	音楽を形づくっている要素によってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 【鑑—①】
	第2時	○曲想の変化や和音の響きの美しさを味わって聴く。 ・イは教科書の楽譜を見ながら、和音の変化に気を付けて聴く。 ・楽曲全体を味わって聴き、そのよさをことばにする。	リズムや主な旋律の反復、変化などを聞き取りそれらが速度や強弱とかかわり合って生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。 【鑑—②】
第一次「まっかな秋」	ねらい	自分の思いや意図をもって、言葉の感じや曲想を生かす工夫をして歌う。	
	第3時	○範唱を聴いたり歌詞を音読したりして、言葉の繰り返しや旋律の特徴に気づく。 ・歌詞を音読し、内容を理解して情景を想像する。 ・範唱を聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・範唱に合わせて低音部を歌う。	歌詞と旋律やリズム、強弱とのかかわりに興味・関心をもち、曲想にふさわしい表現で歌う学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関—②】
	第4時	○歌詞と旋律の関係や強弱記号とのかかわりに気付いて、歌い方を工夫して二部合唱する。 ・楽譜と歌詞とを見比べながら、歌詞や旋律と強弱記号がどうかかわっているかを確かめる。 ・曲想の変化を生かすために、どのように歌いたいかを話し合う。	リズムや旋律の反復、強弱の変化を聞き取り、それらと歌詞の語感とのかかわり合いを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、発声や強弱をつけた歌い方について思いや意図をもっている。 【創—②】
第5時（本時）	○言葉のもつ雰囲気や強弱記号を生かして二部合唱する。 ・発音や呼吸の仕方に気を付けて、前半と後半それぞれの曲想を生かして歌う。 ・自分なりの思いを込めて表情豊かに二部合唱する。	言葉のもつ雰囲気を生かしながら、歌詞の内容や曲想に合う歌い方で表情豊かに歌っている。 【技—①】 リズムや旋律の重なり、反復や変化を聞き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想の変化に合う表現を工夫し、どのような演奏にするかについて思いや意図をもっている。 【創—①】	
第二次「キラマンジャロ」	ねらい	曲想を生かした表現の工夫をしながら合奏する。	
	第6時	○旋律の特徴を生かして主な旋律を演奏する。 ・主な旋律を階名唱し、リコーダーと鍵盤ハーモニカで演奏する。	互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化に興味・関心をもち、曲想の変化に応じた表現の工夫をしながら合奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関—③】
	第7時	○楽器や旋律の特徴を生かして演奏する。 ・楽譜を見たり、範奏を聴いたりすることで鍵盤楽器1と2の特徴をつかむ。 ・楽器の分担を決め、パート練習をする。	楽器の音色や旋律の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。 【技—②】
第8時	○曲想の変化を感じ取って表現の仕方を工夫する。 ・アとイの曲想がどのように変化しているか話し合う。 ○曲想を生かした演奏をするために思いや意図をもって合奏する ・互いに聴き合い、拍の流れにのり、音の重なりを感じながら全体で合わせる。 ・互いの旋律や全体の響きを聴きながら、曲想を生かして演奏する。	互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化を聞き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想の変化に合う表現を工夫し、どのような演奏にするかについて思いや意図をもっている。 【創—①】 互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、反復や変化を聴き合い、曲想の変化を味わいながら楽器を演奏している。 【技—③】	

7 本時の学習 (5/8)

(1) 目標

言葉のもつ意味や雰囲気、曲想を生かした表現の工夫をして歌うことができる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 秋のうたを歌う。 「小さい秋みつけた」を歌う。</p> <p>2 前時のVTRを見て、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○伴奏をしながら一緒に歌い、発声に気をつけたり声を合わせることの楽しさを味わったりできるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○自分たちの演奏を見てどのように感じたか、足りないところはどんなところかを問いかけ、本時のめあてをつかめるようにする。</p>
<p>「まっかな秋」の様子が伝わる歌い方の工夫をしよう。</p>	
<p>3 2つのグループに分かれて意見を出し合い、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの音が聴き取りやすいよう、教室の前方と後方に分かれて活動する。 ・楽譜に工夫する点を書き込んでいく。 <div data-bbox="213 1032 724 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1回目の「まっかだな～」より、2回目は強く、3回目はさらに強くしてみよう。</p> </div> <div data-bbox="368 1155 764 1223" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>フレーズのまとまりを大切にしよう。</p> </div> <div data-bbox="213 1263 764 1330" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「まっかだな」の旋律の違いをしっかりと表現しよう。</p> </div>	<p>○工夫の観点をはっきりさせるため、音楽を形づくっている要素ごとに意見をまとめていく。</p> <p>○個の意見を反映しやすくするために、出てきた意見に沿って必ず歌ってみて確かめるよう声かけをする。</p> <div data-bbox="815 1003 1442 1245" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆ リズムや旋律の反復、強弱の変化を聴き取り、それらと歌詞の語感とのかかわり合いを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、発声や強弱をつけた歌い方について思いや意図をもっている。 【創—①】 <small>（態度観察・演奏聴取・発言・楽譜）</small></p> </div> <p>○グループごとの拡大譜を用いて発表するよう声かけをする。</p>
<p>4 グループごとに演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの演奏を聴き合い、気付いたことや感じたことを発表する。 <div data-bbox="185 1576 764 1659" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>旋律が上がっているところはだんだん強くなるように歌っていて、盛り上がりがあったね。</p> </div> <div data-bbox="185 1704 764 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ぼくたちのグループは、曲の終わりを強く歌ったけれど、反対に静かに歌っていて、ほっと和む感じがした。</p> </div>	<div data-bbox="815 1518 1442 1704" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 語感を生かしながら、歌詞の内容や曲想に合う歌い方で表情豊かに歌っている。 【技—①】 <small>（態度観察・演奏聴取・発言・楽譜）</small></p> </div>
<p>5 互いのよい点を生かし、全員で二部合唱する。</p>	<p>○どちらの意見を取り入れるかうまく決められない場合は、歌って確かめて決めるようにする。</p>
<p>6 初回到録音（録画）した歌声を聴き、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回と今日の演奏を聴き比べ、感じたことをまとめておく。 	<p>○初めて歌った時の歌声と聴き比べることで、学習の成果を自分の耳で確かめることができるようにし、達成感を味わわせることで今後の活動意欲につなげる。</p>

指導者 青木 さゆり (T1)

谷 真喜子 (T2)

1 題材名 いろいろな音を楽しもう

教材名 表現 音楽づくり「がっきでおはなし」

歌唱 「虫の声」

鑑賞 「だがっきパーティー」

2 題材について

本題材では、打楽器の音色の特徴や響きの違いを感じ取りながら、音色やリズムの組み合わせ、強弱などを工夫し、いろいろな音を楽しむことをねらいとしている。

小学校低学年では、声や身の回りにある音、扱いやすい小物楽器等、身近にある音の出るものを活用し、いろいろな音を楽しむ経験をすることが大切である。興味・関心をもって様々な音にふれ、めあてをもって音を聴く経験を積み重ねることで、音色や響きなどの音の特徴を感じ取る力が育ち、音に対する感性が深まっていくと考える。

音楽活動を行うにあたり、「音を聴くこと」は不可欠である。自分の奏する音をよく聴くこと、そして相手の奏する音をよく聴くこと、さらに自分と相手の奏する音をお互いが聴き合って合わせることで、音楽表現がより充実してくるだろう。本題材でも、打楽器の音色を感じ取る鑑賞の学習で、音を聴くことから始まり、いろいろな音を試しながら表現するという、自分の音をよく聴く学習を経て、さらに相手の音を受けて、自分が思考判断した音で答えるという活動を取り上げる。自分自身の音をよく聴いたり、相手の音をよく聴きそれを受けて表現したりしていくことは、内容や曲の難易度が変わろうとも、共通する大切な土台となると考える。

3 題材の目標

- 音楽の仕組み（問いと答え）を生かし、音楽を特徴づける要素（音色・リズム・強弱）を工夫しながら、思いをもって音楽づくりをする。

4 研究の視点について

【視点3】「音楽を形作っている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

- 「音楽を特徴づける要素」に着目した音遊びの日常的な実践

「音楽を特徴づける要素」(音色・リズム・強弱・拍の流れ・問いと答え)が身近なものとして関わられるように、その要素を含んだ「音遊び」を常時活動の中に取り入れるようにする。普段の活動の中で、教師が出す打楽器の音色や友だちのリズムをまねる遊び、拍の流れにのって音をつなげるリズムリレー、音のバトンと称して音を相手に受け渡す音遊び等を実践する。

- 「音楽の仕組み」を生かした音楽遊びや音楽づくり

本題材では、第一次の鑑賞で、打楽器の音色や響きを感じ取り、様々な楽器に触れる学習を行う。第二次では、音楽の「問いと答え」の仕組みを支えに音楽遊びや音楽づくりを行う。まず、第2時は4種類の楽器の音色を楽しみながら、拍の流れにのって交互にリズム打ちをすることで「問いと答え」という音楽の仕組みに親しむ。第3時は、個々が選んだ楽器でさまざまな音色・リズム・強弱などの工夫を加えながら拍の流れにのって交互にリズム打ちをする。第4時の歌唱曲「虫の声」では、虫の鳴き声を歌う組と、それ以外を歌う組に分かれ交互唱をすることで、歌唱曲にも「問いと答え」が使われていることに気付かせる。

第5時(本時)では、今までの既習事項を全て生かし、一定の拍の流れがない中でも、「問いと答え」の音楽の仕組みを生かして、音色やリズム、強弱を工夫(思考・判断)しながら、話しかけたり答えたりする気持ちをもって音楽をつくる(表現)力を身につけさせたい。

5 題材の指導計画（5時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次		ねらい 楽器の音色の特徴を感じ取りながら音楽を聴く。	
	第1時	<p>○「だがつきパーティー」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色の特徴や響きの違いを感じ取りながら聴く。 ・曲に使われる楽器（ウッドブロック・トライアングル・クラベス・カスタネット・小太鼓・すず・タンブリン）に触れ、音色の特徴や響きの違いをつかむ。 ・自分の好きな音色を見つける。 	<p>打楽器の音色を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>（音楽への関心・意欲・態度①）</p> <p>打楽器の音色の特徴を聴き取り、音色や響きの違いを感じ取って聴いている。</p> <p>（鑑賞の能力①）</p>
第二次		ねらい 演奏の仕方を工夫して、「問いと答え」を生かしながら音楽をつくる。	
	第2時	<p>○拍の流れにのって、問いと答えの音楽を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つのリズムパターンを確認する。 ・楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）とリズムパターンを選び、問いと答えになるように、拍に合わせてリズム打ちをする。 ・様々な楽器やリズムを使い、音遊びを楽しむ。 	<p>打楽器の音色の特徴に興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>（音楽への関心・意欲・態度②）</p>
	第3時	<p>○拍の流れにのり、演奏の仕方を工夫して、問いと答えの音楽を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）から、各自楽器を一つ選び、いろいろな演奏の仕方を試す。 ・問いと答えになるように、拍に合わせて演奏の仕方を工夫したリズム打ちをする。 ・それぞれの楽器のいろいろな音色を聴いて楽しむ。 	<p>打楽器のいろいろな演奏の仕方を試し、思いをもって、問いと答えを生かした音楽をつくる工夫をしている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫①）</p>
	第4時	<p>○「虫の声」を歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫が鳴いている様子を想像し、鳴き声を擬音語で表す。 ・虫の鳴き声を歌う組と、それ以外を歌う組に分かれて交互唱をする。 ・虫が鳴いている様子を想像しながら歌唱する。 	<p>「虫の声」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、歌っている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫②）</p>
	第5時（本時）	<p>○拍の流れにとらわれずに、演奏の仕方を工夫して、問いと答えにのって演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫の鳴いている音を聴き、拍の流れにのった音楽との違いを見つける。 ・いろいろな表情の虫の絵から、虫の気持ちを想像し、楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）で表現する。 ・虫の気持ちを、音色やリズム、強弱、問いと答えを工夫して楽器で表す。 	<p>打楽器の音色の違いを感じ取り、リズムの組み合わせや演奏の仕方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いをもっている。</p> <p>（音楽表現の創意工夫③）</p> <p>打楽器の音色の特徴に気付き、いろいろな演奏の仕方を見つけ、問いと答えを生かした音楽づくりをしている。</p> <p>（音楽表現の技能①）</p>

6 本時の学習（5/5）

（1）目標

音楽の仕組み（問いと答え）を生かし、音楽を特徴付けている要素（音色、リズム、強弱）を工夫して、虫の気持ちになって楽器で表現する。

(2) 展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり (T1 T2) ◆評価規準 (評価方法)
1 常時活動 (音遊び) を行う。 2 「虫の声」を歌う。 3 本時のめあてをつかむ。	○本時の学習につながるような音遊びを取り上げる。 ○虫によっていろいろな鳴き声があったことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">虫になっておはなしをしよう</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に虫が鳴いている音を聴き、拍の流れにのっている音楽との違いを見つける。 4 虫の気持ちを楽器で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・カスタネット・すず・トライアングル・タンブリンの中から、一つ楽器を選ぶ。 ・絵の表情から虫の気持ちを想像し、楽器で表現する。 5 虫になって、楽器で即興的におはなし (音楽づくり) をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童でおはなしをする。 ・児童同士でおはなしをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の前で発表する。 6 学習の振り返りをする。	○実際には、拍にのらずに鳴いている虫もいることに気付かせる。 ○児童に好きな楽器を選ばせる。どの楽器も、音色やリズム、強弱を工夫することで、いろいろな音が表現できたことを思い出させる。 ○5種類の表情の虫の絵を用意し、虫の気持ちを想像させ音で表現させる。 (笑っている顔・泣いている顔・怒っている顔・ほのぼのとしている顔・焦っている顔) ○拍の流れにとらわれずに自由な速度で表現できるようにする。 ○実際の虫の音を表現することが目的ではないので、音色や強弱、リズムを工夫して、自分なりの虫の気持ちを表現できれば良いこととする。 ○リズム、音色、強弱を工夫し、問いと答えを意識して活動できるように伝える。 ○児童同士が活動をしているときに活動観察と演奏聴取 (評価) を行い、児童の楽器カードにシールをはる。また、楽器カードにシールを張る場所を決めておき、評価を記録する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆打楽器の音色の違いを感じ取り、リズムの組み合わせや演奏の仕方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いをもっている。 (音楽表現の創意工夫②) (活動観察・演奏聴取・発言)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆打楽器の音色の特徴に気付き、いろいろな演奏の仕方を見つけ、問いと答えを生かした音楽づくりをしている。 (音楽表現の技能①) (活動観察・演奏聴取・発言)</p> </div> ○発表者には虫の帽子をかぶらせて、楽しい雰囲気作りをする。 ○楽器の音色やリズム、強弱や問いと答えを生かして楽しみながら活動ができたか、学習のまとめをする。

- 1 **題材名** 曲の気分を感じ取ろう
 教材名 鑑賞 『パールギュント』第1組曲から 山の魔王の宮殿にて(グリーグ作曲)
 表現 「赤いやねの家」(織田ゆり子作詞 上柴はじめ作曲)
 音楽づくり 「まるまるまるのほん」(エルヴェ・テュレ作 谷川俊太郎訳)

2 題材について

本題材は、音楽の気分を感じ取り、思いや意図をもって表現したり、鑑賞したりすることをねらいとしている。児童はこれまでに、3学年の「ふじ山」で曲の山を感じ取って表現の工夫をしたり、4学年の「歌のにじ」で斉唱やリコーダーと合わせたときの響きの違いを味わったりしてきた。また、第3学年の「魔法の音づくり」では、楽器の音色の特徴を生かして簡単な音楽づくりを行った。

中学年の〔共通事項〕では、(ア)音の重なり、音階や調、(イ)変化が加わる。そこで、本題材では「変化」に焦点をあて、鑑賞、音楽づくり、歌唱表現の活動で題材を構成する。まず、主な旋律の反復と、速度や強弱の変化を感じ取る鑑賞の学習を始めに行う。音楽を形づくっている要素の働きと関連付けて学習を進めていくことで、音楽づくりや歌唱表現の時に、鑑賞で学習したことを生かせるようにする。音楽の変化は、楽曲の特徴を大きく左右し、表現を工夫する面白さを与えてくれるものである。音楽が変化することによって生み出される、音楽の盛り上がりや場面の变化などの面白さを十分に味わわせたい。それは、児童が音楽表現を工夫するときに、「こんな風に演奏したい」と考える原動力となるものであり、今後の児童の音楽活動をより豊かにするものとする。

これらの学習を経験することで、曲想の変化を感じ取って表現を工夫する中学校での表現活動の素地を養うことができる。例えば、中学校の全学年で行う「合唱表現の工夫」で、音楽の変化に注目して表現を工夫することができる。また、中学校第1学年「メロディー創作」で表現したいイメージをもち構成を工夫して音楽をつくる学習では、変化が生み出す面白さを生かして音楽をつくった経験が生かされると考える。

3 題材の目標

- ・音楽の変化による楽曲の雰囲気の違いや歌詞の内容を味わいながら、音楽を聴いたり歌ったりする。
- ・絵の色や動きをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。

4 研究の視点について

【視点2】小中連携を関連させた題材構成(指導計画)

○中学校へのつながりを考えた題材構成

本題材では、鑑賞で学習したことを音楽づくりと歌唱表現の学習に生かすことができるように題材を構成した。音楽づくりの学習を取り入れることで、変化が生み出す面白さを感じながら音楽をつくる経験をすることができる。実際に自分がつくり出す経験をすることで、音1つ1つに作曲者の思いが込められていることを実感することができる。このような経験をすれば、新しい楽曲に出会ったとき、楽曲の曲想を感じ取って豊かな表現を工夫しようとする態度を育てることができると考える。このような態度を育てていくことで、中学校でも思いや意図をもって豊かに表現しようとする能力を育てていけるだろう。

また、音楽づくりと歌唱表現で同じABA形式を扱い、Bで音楽が変化する面白さや、再びAが演奏されることで生み出される音楽のまとまりを感じ取らせ、楽曲の構成にも目を向けさせていきたい。これらの経験の積み重ねが、中学校第1学年「曲想の変化を感じ取ろう」の、『和声と創意の試み』第1集『四季』から『春』(ヴィヴァルディ)でロンド形式の構成に気を付けながら曲想の変化を感じ取って聴く学習や、中学校第2学年「曲の仕組みを理解して聴き取ろう」の、「交響曲第5番『運命』(ベートーベン)でソナタ形式の仕組みに注目して楽曲を楽しむ学習に発展していく。

○イメージをもった音楽づくり

絵に描かれた丸の色や動きから感じたことをもとに音楽づくりを行う。感じたことに合う音を探して試行錯誤を繰り返す中で、児童は楽器の音色に親しみ、様々なリズムで演奏し、たくさんの音に接することができる。自分たちがつくった音楽を友達に説明したり、友達がつくった音楽の感想を伝えたりすることで、音と言葉を結び付け、「はずんでいる音」や「走っている音」など、自分のなかに音のイメージをつくっていくことができると思われる。このような経験をすることで、中学校で豊かなイメージをもった創作活動を行う力を育てていきたい。

中学校第1学年の学習指導要領に「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」とある。イメージをもつためには、様々な音素材と出会い、その特徴を知っていることや、実際に何かをイメージして音楽をつくった経験が必要である。本題材を通して、中学校での創作活動の基礎を築くことができると考える。

5 題材の指導計画 (9時間計画)

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次		ねらい 音楽が変化していくことで生み出される面白さを感じ取る。	
	第1時	○『ペールギュント』第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」を鑑賞し、音色、速度、強弱の変化や反復を聴き取る。 ・「山の魔王の宮殿にて」を聴き、音楽に合わせて体を動かし、速度や強弱の変化を感じ取る。 ・同じ旋律の繰り返しを探したり、音色、速度、強弱などの変化を聴き取ったりして楽曲の構造を理解する。	同じ旋律が反復されながら変化していく楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①)
	第2時	○『ペールギュント』第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」を鑑賞し、音楽の変化が生み出す面白さを感じ取る。 ・「山の魔王の宮殿にて」を聴き、音楽に合わせて体を動かし、曲想の変化を感じ取りながら楽曲全体を聴く。 ・「山の魔王の宮殿にて」のよさを家の人に紹介する文を書く。	旋律の反復や音色、強弱、速度の変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、それを友達と話し合うなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを味わって聴いている。 (鑑賞の能力①)
第二次		ねらい 絵の色や動きをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。	
	第3時	○音楽づくりの計画をたてる。 ・AB2つの音楽をつくることを知る。 ・Bの部分に使う絵を選び、グループを決める。 ・楽器の分担を決める。	絵から発想を得て、音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化などを生かしてまとまりのある音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度②)
	第4時	○Aの部分の音楽をつくる。 ・赤、青、黄の色ごとに音楽をつくる。 ・それぞれの色の音楽ができれば、グループで聴き合い合わせる。	楽器の音の特徴や音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の響きの組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想をもっている。
	第5時	○音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させてBの部分の音楽をつくる。 ・変化させる要素を決めて、Bの音楽をつくる計画をたてる。 ・音色、リズム、強弱、速度、音の重なりを変化させて、表現を工夫する。	(音楽表現の創意工夫①)
	第6時(本時)	○AとBをつなげて演奏したものを聴き合い、友達の工夫を見つけたりアドバイスをしたりする。 ・Bの音楽を完成させて、Aとつなげて演奏する。 ・変化がわかりやすいグループや、づくり方で迷っているグループの演奏を聴く。 ・真似したい工夫や、もっとよくするためのアドバイスを話し合う。	
	第7時	○作品を仕上げ、発表会を行う。 ・前時のアドバイスをもとに作品を完成させる。 ・友達の作品を聴き、工夫されているところやよかったところを伝える。	音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化など音楽の仕組みを生かして、まとまりのある音楽をつくっている。 (音楽表現の技能①)
		ねらい 旋律の特徴や歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	
第三次	第8時	○「赤いやねの家」の旋律と歌詞を知る。 ・楽譜を見て、気づいたことを話し合う。 ・「赤いやねの家」を歌い、旋律と歌詞を覚える。 ・歌詞の内容を話し合いどんな様子を歌っているか考える。	歌詞の内容や旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度③)
	第9時	○「赤いやねの家」を工夫して歌う。 ・「赤いやねの家」を歌い、めあてを確認する。 ・楽譜を見て、ABA形式になっていることを確認する。 ・Bの部分は音が高くなっていくことや、歌詞の内容も変わっていることなどから、表現の工夫を考える。 ・「赤いやねの家」を曲想の変化を生かして歌う。	声の響きや速度、旋律や強弱を聴き取り、旋律の音の動きや強弱の働きが生み出す効果を感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫②) 歌詞の内容や旋律の特徴から曲想を感じ取り、それにふさわしい表現で歌っている。 (音楽表現の技能②)

6 本時の学習(6/9)

(1) 目標

絵から感じたことをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの音楽を2グループ聴き、絵の様子が伝わってくる工夫や、もっと工夫できるところを話し合う。 	<p>○ 前時の学習内容を想起させ、音楽を特徴付けている要素(音色、リズム、強弱、速度、音の重なり)を変化させることを確認する。</p>
<p>絵の様子が伝わるように、工夫してBの音楽をつくろう。</p>	
<p>2 Bの音楽を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵に合うように表現を工夫する。 (音色、強弱、リズム、速度、音の重なり) <p>「どんな奏法がいいかな」 「どうやって重ねようかな」 「どうやって終わろうかな」</p>	<p>○ 旋律の重ね方やつなげ方を「音楽づくりの技」として掲示しておく。(・くりかえし・おしゃべり・リレー)</p> <p>○ 鑑賞で学習したことを掲示しておき、迷った時に見るように声をかける。</p> <p>○ なかなか音にできない時は、前時に話し合った絵からイメージした言葉を確認し、言葉に合う音を探すよう促す。</p> <p>○ 自分たちがつくっている音楽が、絵のどの部分を表しているのかを常に意識しながらつくるように助言する。</p>
<p>3 Bが完成したグループは、Aとつなげて演奏し、音楽の変化を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の違いを表すことができているか。 	<p>○ 変化が聴き手に伝わりにくい場合は、マレットの種類や打ち方を変えたり、変化の度合いを大きくしたりするよう声をかける。</p> <p>○ 音楽があまり変化させられていない場合は、もう一度AとBの絵の違いから、変化させたい音楽の要素を考えるように促す。</p>
<p>4 ABAをつなげて演奏し、絵の様子が伝わってくる工夫を探す。</p> <p>「低い音の楽器だと暗い感じがする」 「だんだん速くなって回っているようだ」 「演奏の順番が変わって絵と合っている」 「音が強くなって迫力がある」</p>	<p>○ 絵の様子がよく伝わるグループの演奏を紹介する。</p> <p>○ どの絵を表しているか考えながら聴くように声をかける。</p>
<p>5 アドバイスや、友達の工夫をもとに、音楽を完成させる。</p>	<p>○ 真似したいと思った工夫を取り入れるように声をかける。</p>
<p>◆ 楽器の音の特徴や音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の響きの組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想をもっている。</p> <p style="text-align: right;">(音楽表現の創意工夫①)〈態度観察・発</p>	

1 題材名 曲想を味わおう

教材名 鑑賞「威風堂々第1番」 エルガー作曲

表現「威風堂々」エルガー作曲／長谷川匡俊編曲

2 題材について

本題材は、楽曲全体を見通して、思いや意図をもって表現できる能力を育てるために、曲想とその変化を感じ取って聴くことをねらいとしている。また中学校での、中学校学習指導要領 B 鑑賞（1）ア音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのここわりを理解して聴き、根拠を持って批評する…の学習につながるものである。中学校で、言葉で批評する学習では、楽曲の「この部分」という明確なものを聴きとれていることが前提であると考え。小学校の高学年に入った時期の児童に、曲想がどんな要素でできているのか、曲想が変化したのほどのポイントだったのかを明確にし、音楽を聴く喜びをより深める機会にしたい。

曲想の変化を聴きとる力が身に付けば、楽曲全体が、どんな構造になっているかに興味を持つきっかけになるであろう。また、表現活動においても楽曲全体を見通して、思いや意図をもって表現したい気持ちが高まるだろうと考える。

3 題材の目標

- ・曲想とその変化を感じ取って聴く。
- ・自分たちの思いや意図をもって、強弱や速さ、音色などを工夫し、表現の仕方を工夫して演奏する。

4 研究の視点について**視点1 9年間を見据えた学び方の共有**

○音楽を表す言葉集の活用

児童に、あらかじめ「音楽をあらわす言葉の例」を持たせて学習する。小学校高学年に入る時期に、楽曲を聴いて曲想を感じ取って、言葉に表すことを習慣化し、曲想を表す言葉の語彙を増やしてことで、中学校での言葉で批評する活動をより豊かにしていきたい。

○構造図の活用

音楽の流れ全体を構造図に表し、児童が聴き取ったこと、気付いたことなどを記入する。これらを活用して思考過程を可視化し、楽曲のよさや面白さを「音楽を形づくっている要素」とそれらの関わり合いにより生み出されることに気付かせ、中学校ではさらに深く聴き取るようにしていきたい。

○ワークシートの活用

音楽を聴いて音楽を形づくっている要素との関わり合いについて、自分の意見を話すときに、いろいろな表現方法があるが、体の動きを使う方法も有効である。そのときに、なぜそう動きたくなったかを、「音楽をつくっている要素」と関連付けて書くようにする。5年生の児童は、曲想という言葉に初めて出会うので、曲想を表す語彙を増やすヒントにする。

6 題材の指導計画（5時間計画）

次	時	○学習内容・主な学習内容	評価規準
第1次		ねらい 曲想の移り変わりを感じ取って聴く。	
	第1時	<p>○「威風堂々第1番」がどのような曲なのかをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの部分で階名で歌い、リズムや音の高さなどを確認する ・通して聴いて、アとイの曲想の違いをワークシートにまとめる。 	「威風堂々第1番」の鑑賞から、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって、歌ったり、演奏したりする活動に主体的に取り組んでいる。（音楽への関心・意欲・態度①）
	第2時 〔本時〕	<p>○曲想が移り変わる面白さを感じ取って「威風堂々第1番」全体を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスのプロムナードコンサートの演奏を映像つきで鑑賞して、曲想の移り変わりを感取る。 ・アとイが繰り返されながら変化していく様子を体の動きを付けながら聴く。 	・アとイが繰り返されること、イの強弱、速度、音の上がり下がり、リズム、音色等が変化していくことなど、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。（鑑賞の能力①）
第2次		ねらい 曲想にふさわしくなるよう演奏の仕方を工夫する。	
	第3時	<p>○「威風堂々」イの主な旋律を楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原語で歌ったり、楽器で演奏したりして主旋律に親しむ。 ・パートを決めて、各パートの練習をする。 	・臨時記号に気を付けて、拍の流れに乗って演奏している。（音楽表現の技術①）
	第4時	<p>○イの部分を曲想の良さを味わって合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの部分をオーケストラの演奏で聴いてみる。 ・強弱・速度・楽器の組み合わせ、繰り返しなどを工夫して練習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや旋律の重なり、反復や変化を味わいながら楽器を演奏している。（音楽表現の技術①） ・曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏したいか自分の考えを持っている。（音楽表現の創意工夫①）
第5時	<p>○工夫したことが伝わるように演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫したことを明確にして演奏する。 ・イの部分をもう一度オーケストラの演奏で聴いてみる。 ・この曲の紹介文を書き、発表しあう。 	・曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏したいか自分の考えを持っている。（音楽表現の創意工夫①）	

7 本時の学習 (2 / 5)

(1) 目標

曲想の移り変わりを感じ取って聴く。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
1 威風堂々のイの部分のリコーダーで演奏する。 2 本時のめあてを確認する。	○1 かっこ 2 かっこの演奏順番を拡大楽譜で示す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「威風堂々第1番」を、曲想が移り変わっていく様子に気をつけて聴こう</div>	
3 楽曲の構造に気をつけて聴く。 ・アとイの主な旋律の感じをつかむ。 ・曲の感じが変わるところで挙手をする。 ・曲全体を聴き、アとイの主な旋律がどのように出てくるかを考える。 4 ・イギリスのプロムナードコンサートの演奏を鑑賞する。 5 曲想に気をつけて聴く。 ・強弱・速さ・音の上がり下がり・リズム、音色などの音楽を形づくっている要素に気をつけて聞くようにする。 ・曲想の変化を感じ取りながら聴く。	○アのはずんだ感じや、イのなめらかな感じをピアノで弾いて示し、ロズさんだりリズム打ちをしたりしながら感じ取らせるようにする。 ○曲の感じが変わる5ヶ所で挙手できているかを確認する。 ○いろいろな音楽の要素に着目するように伝え、楽曲の構造にも気づけるようにする。 ○聴衆の体の動きに注目するように示す。 ○曲想について、P26「曲想」を読み、確認する。 ○それぞれの要素に着目して聴けるように、強弱、速さ、音の上がり下がり、リズムなどのカードを掲示しておく。 ○2拍子の指揮をしたり、体を動かしたりして、曲想の変化を感じ取らせるようにする。
<予想される児童の動き> ・アははずんだ感じで指揮をする。 ・イはなめらかな感じで指揮をする。 ・音が強い時に大きく指揮をする。 ・音が小さい時は小さくやさしい感じで指揮をする。	○1回目と2回目のイの部分の違いに気をつけて聞くように助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> ◆アとイが繰り返されること、イの強弱、速度、音の上がり下がり、リズム、音色等が変化していくことなど、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。(鑑賞の能力①)〈ワークシート・発言〉 </div> ○意見を発表できる場を設定する。
6 わかったこと・気が付いたことをワークシートに記入する。	

- 1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう
教材名 管弦楽組曲「惑星」から「木星」(ホルスト 作曲)

2 題材について

題材観

本題材では、役割の異なるパートの音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の特徴を生かした合奏や音楽づくりをする。また、オーケストラの様々な楽器の組み合わせから生まれる響きを味わう。表現と鑑賞を関連付けた題材構成により、楽器の組み合わせから生まれる響きの美しさを味わうことをねらいとしている。これらの学習は中学校第1学年の『情景と音楽』のリズムや旋律、強弱の変化と曲想の関わり、楽器の音色に関心をもって鑑賞する学習や中学校第2学年の『形式による曲のおもしろさ』の曲の形式や構造と、それらが生み出す曲想との関わりを理解して曲全体を味わう学習さらに中学校第3学年の『名曲の響き』の音楽の特徴や変化、楽器の組み合わせによる表現の効果から感じ取ったことを言葉で説明するなどして、多様な音楽表現の豊かさや美しさを味わって鑑賞する学習へと発展していくと思われる。

児童はこれまでに旋律の特徴や変化を感じ取りながら聴いたり(第3学年『メヌエット』・第4学年『白鳥』・第5学年『威風堂々第1番』)楽器による音の特徴や音色の違いを感じながら聴いたり(第3学年『トランペットふきの休日』・第4学年『バディネリ』『クラリネットポルカ』)旋律や音が重なり合う面白さを感じ取って聴いたり(第3学年『かね』・第4学年『ファランドール』・第5学年『アイネクライネナハトムジーク第1楽章』『双頭のわしの旗の下に』)してきた。この題材を学習することにより、楽器による音の重なりや響きの違いやよさを知り、合奏表現での楽器選びで音色の特徴を生かした楽器を選んだり、反対に旋律の特徴に合った楽器を選んで音の重なりや響きを楽しむなどの経験をしてきた。

本題材では「ラバースコンチェルト」の学習で自分たちの音色のイメージに合った楽器を選んだり、それぞれのパートの旋律を生かす楽器を選んでグループ合奏をさせ、進んで表現を楽しむことのよさを味わわせたい。また、鑑賞教材の「木星」では、オーケストラの様々な楽器の音色に注目し、速度や旋律などの変化による曲想の移り変わりに気を付けて聴かせたい。さらに、オーケストラだけでなく、他の楽器による演奏にも目を向けさせ、楽器や編曲の違いによる楽曲のよさを味わわせたい。

3 題材の目標

- (ア) パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組み合わせから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする。
(イ) 楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする。

4 研究の視点について

【視点1】 9年間を見据えた学び方の共有

子供たちは日頃クラシック音楽を聴く機会がほとんどない。しかし、TVの番組やCM等でクラシック音楽に触れる機会は少なくはない。子供たちの音楽への興味関心を広げるためにも教科書教材だけでなくいろいろな音楽を聴き、その楽曲の特徴や面白さを知ることによりさらに興味・関心を持って音楽を楽しむことができるようになると思う。そして、この学習により中学校でより広く音楽を楽しんだり、分析して音楽を聴いたりする学習の基礎となればと考える。

【視点3】 「音楽を形作っている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

鑑賞の学習の際、楽器の音色を味わったり、楽曲の構成を知ったり、「音楽を形作っている要素」をもとに楽曲を分析することで、より興味・関心をもって鑑賞ができると考える。また、共通事項と関連付けながら楽曲を聴くことにより、その楽曲のよさや特徴が明確になると考える。そして、そこで学んだことを合奏や合唱などの表現活動にも生かすことができるよう指導していきたい。

5 題材の指導計画 (3時間計画)

時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第1時	○いろいろな音が重なり合うオーケストラの響きを味わって「木星」を聴く。 ・主な旋律の楽器の音色に着目し、旋律の繰り返しや様々な演奏の変化に気付く。 ・曲想の変化による情景を思い浮かべて聴く。	○楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたる曲想を味わったりして聴いている。 (鑑一①ワークシートの記入内容) ○曲想とその変化の特徴、楽器の音色と旋律の反復や変化、拍子の違いなどのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表するなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解して聴いている。 (鑑一②ワークシートの記入内容)
第2時	○様々な編曲や演奏形態による「木星(中間部3/4の旋律)」の演奏を聴く。 ・オーケストラでの演奏と比べて、その演奏のよさや特徴を感じ取り、自分の好きな演奏を決める。	○オーケストラの響きに興味・関心をもち、楽器の響きや楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。(興・関一②発言から)
第3次 (本時)	○自分の好きな「木星(中間部3/4の旋律)」の好きなところとその理由を言葉で表現し伝え合う。 ・楽器の音色、編曲、音の重なりなどの共通事項をもとに自分の選んだ「木星」のよさや特徴を同じグループの友達と共有する。 ・自分たちの好きな「木星」のよさや特徴を発表し、オーケストラでの演奏と比べる。	○曲想とその変化の特徴、楽器の音色と旋律の反復や変化、拍子の違いなどのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表するなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解して聴いている。(鑑一②付箋への記入内容) ○楽器の響きに興味・関心をもち、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 (興・関一①発言から)

6 本時の学習 (3 / 3)

(1) 目標

自分の好きな「木星」を選んだ理由を伝え合うことができる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉								
<p>1 「木星 (中間部 3 / 4 の旋律)」のオーケストラ演奏を、これから聴く自分の選んだ「木星」と比べて聴く。</p> <p>2 自分の選んだ「木星」を確認する。 「シンセサイザー」「パーカッション」 「ピアノ連弾」「パイプオルガン」</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○これから様々な「木星」を聴くが、原曲はオーケストラによる演奏であることを確認する。</p> <p>○前時に選んだ演奏を確認させ、聴く場所を伝える。</p> <p>○音楽室・音楽準備室・視聴覚室・視聴覚準備室に CD を準備する。</p>								
<p>自分の好きな「木星」のよさや特徴を伝えよう。</p>									
<p>4 共通事項を使った言葉で自分の気に入ったところとその理由を伝える。 (共通事項) 音色 速度 旋律 音の重なり 変化</p> <p>○好きなところをピンクの付箋に書く。 (記入例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音がきれい ・音楽が盛り上がる ・情景が浮かぶ など <p>○理由を水色の付箋に書く。 (記入例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○の音色が宇宙の様子を強調している。 ・たくさんの楽器で音が重なっている。 ・旋律 (メロディ)が美しい。 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">0 : 0 0 1 : 0 0</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding-right: 5px;">上がピンク</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 5px;">下が水色</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">付箋</td> </tr> </table> </div>	上がピンク	付箋	付箋	付箋	下が水色	付箋	付箋	付箋	<p>○共通事項の言葉については、理由の一つとしてキーワードになることを知らせ、また、この言葉を使わずに、自由に表現してもよいことを知らせる。</p> <p>○付箋は選んだ曲ごとに画用紙に貼らせる。この時、画用紙の横軸を楽曲の時間経過とし、CD のカウンターをもとに、曲のどのあたりが気に入ったのか確認し、おおよその場所に貼らせる。ピンクの付箋の下に理由の水色の付箋を貼らせる。</p> <p>○好きなところが書けない子には、なぜその曲を選んだのか声掛けをし、その答えをピンクの付箋に書けばよいこととする。または個別に呼んでオーケストラでの演奏を聴かせ、違いを考えさせる。</p> <p>◆好きなところと理由を付箋にまとめ、友達に伝えることができる。(付箋—B 評価)</p> <p>◆共通事項の文言を適切に使って好きな理由を付箋にまとめ、友達に伝えることができる。(付箋—A 評価)</p>
上がピンク	付箋	付箋	付箋						
下が水色	付箋	付箋	付箋						
<p>5 同じ曲を選んだ者同士で付箋の内容を共有する。同じ意見が多いことについては、グループの意見としてまとめ、他のグループに発表する。</p>	<p>○理由が書けない子には、共通事項の言葉に着目させ、どれにあたるのかひとつひとつ考えさせる。</p> <p>○多くの子がよい・好きだと言った部分がある場合はその曲の特徴としてまとめさせる。</p> <p>○様々な意見がある場合はそれぞれの意見を共有し、いろいろな感じ方があることを知らせる。</p>								
<p>6 最後にオーケストラによる「木星 (中間部分 3 / 4 の旋律)」を聴き、新しく気付いた点などを発表する。</p>	<p>○いろいろな「木星」を聴いたことにより、今までは気付かなかったオーケストラのよさや特徴・新しい発見などを発表し合い、この曲のよさを深めたい。</p>								